

かさまのれきし

第 56 回



(写真：右) 笠間市郷土資料館
(写真：左) 御前塚古墳（市指定史跡）



笠間市郷土資料館

常磐線岩間駅から南西へ、愛宕山に向かって約一キロメートル、国道三五五号を渡り、下郷と泉の境に笠間市郷土資料館があります。

本館は、昭和六十年（一九八五）、岩間中央公民館協に、岩間町図書館として開館しました。平成二十年（二〇〇八）に図書館が市民センターいわま内に移動した後、郷土資料館として地域の資料を保存する岩間地区唯一の施設です。

館内には、上郷西寺遺跡出土の「円面硯」、長堤遺跡出土の「銅造松垣秋草双雀鏡」、安居東平遺跡から出土した「騎兵長十」と記された「墨書土器」、弓矢に使われる「雁股式鉄鏃」（いずれも市指定文化財）、八幡太郎義家の伝説にまつわる大量の「焼き米」、他にも笠間焼の壺類など貴重な文化財が保管されています。

また、『友部町史』『岩間町史』など、今までに発刊された書籍に収録された古文書類や古写真をはじめ、地域に眠っている貴重な歴史資料など、数万点の資料が保管されています。現在は、主に市史研究員が地域の歴史研究や史料整理に利用しており、新たな歴史的発見、

研究に向けて地道な作業を続けています。

正面玄関から外へ目を向けると、市内最大の円墳「御前塚古墳」（市指定史跡）が目に入ります。直径約六十メートル、高さ約六メートル、周溝を含めた全長は約百メートルに及びます。五世紀前半のものとされる古墳で、円筒埴輪片が出土し、また、かつて南裾に石棺が置かれていたとの言い伝えもあり、ヤマト王権につながる中小首長の墓とみられます。この古墳の南側には、ほぼ同規模の「藤塚古墳」が存在し、周囲にはさらに大小数基の古墳が確認され、古墳時代の繁栄が窺えます。

この場所は、昭和二十年代に旧岩間第一中学校、同四十六年（一九七二）に完成した中央公民館の跡地であり、春の時期には満開の桜で賑わいました。南側のグラウンドでは、町の運動会も行われました。今では、公民館も解体され、ひっそりと空き地が広がります。是非この歴史的環境を維持しながら、昔のように地域の人達が楽しめる、賑わいのある利用を考えていけたらと思っています。

（市史研究員 川崎史子）